

# 平成 27 年度 第 9 回 牧之原市自治基本条例推進会議

## 次 第

日時：平成 28 年 2 月 25 日（木）

午後 7 時から午後 9 時

会場：牧之原市役所 榛原庁舎 4 階会議室 1・2

### 1 開 会

### 2 会長挨拶

### 3 議 題

(1) 報告会の役割分担と進め方について

(2) その他

### 4 副会長挨拶

### 5 連絡事項

【次回の日程変更】

日時：平成 28 年 3 月 18 日（金）午後 3 時 30 分から午後 5 時 30 分

会場：市役所榛原庁舎 4 階会議室

### 6 閉 会

#### 【資料】

資料 1：施設分類別の方向性及び先導的な施設の論点について

資料 2：対話の場まとめ（当日配布資料）

資料 3：報告会 司会シナリオ

資料 4：報告会 スライド

資料 5：報告会 自治基本条例で話し合った事項 □述書



絆と元気が繋がる

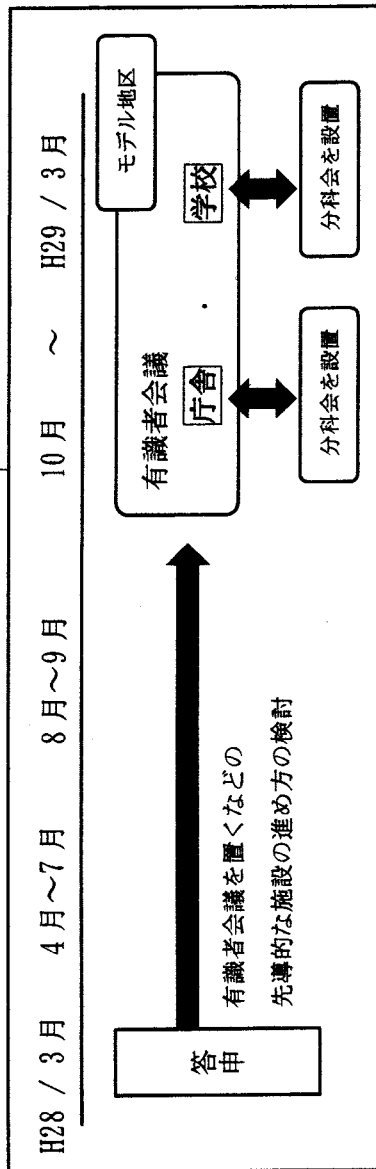
幸せあふれみんなが築く

NEXTまきのほら

施設分類別の方向性及び先導的な施設の論点整理について

No	現状と主な課題	前回の委員の意見	推進会議の方向性(案)
1	<p>●生涯学習活動(田沼塾、はりはら塾)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点施設は、榛原文化センターと相良公民館</li> <li>・相良公民館は耐震性が不足しているなど、継続して使用することが難しい。</li> <li>・榛原文化センターだけでは活動拠点が足りず、榛原地区のコミュニティセンター等を利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい運営方式が必要、団体を一つにする。</li> <li>・二つの組織が同一の建物を活動拠点にする。事務局もそこで一つにする。</li> <li>・拠点(本スクール)が一つになることで、今まで行けた人が行けなくなることもあるのではないか。</li> <li>・参加者の利便性を確保のため、移動スクールの設置、地区単位での開催なども考えられる。</li> <li>・3つ公民館(相良、萩間、地頭方)にもコミュニティセンターのような交流機能を持たせる。</li> <li>・小中学校施設を生涯学習の場としても活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体を一つにする。</li> <li>→田沼塾、はりはら塾を統合する。</li> <li>・市民が主体的に運営する。</li> <li>→民間による運営方式とする。</li> <li>・本スクールの拠点となる施設を決める。</li> <li>・地域に開かれた学校とし、教育と生涯学習の拠点とする。</li> <li>→市の中心部にある空き施設、スペースを拠点として検討する。</li> <li>・地区毎の活動で利便性を確保する。</li> <li>→コミュニティセンターや公民館をまちづくりセンター(仮称)として活用する。</li> </ul>

【推進のイメージ図】



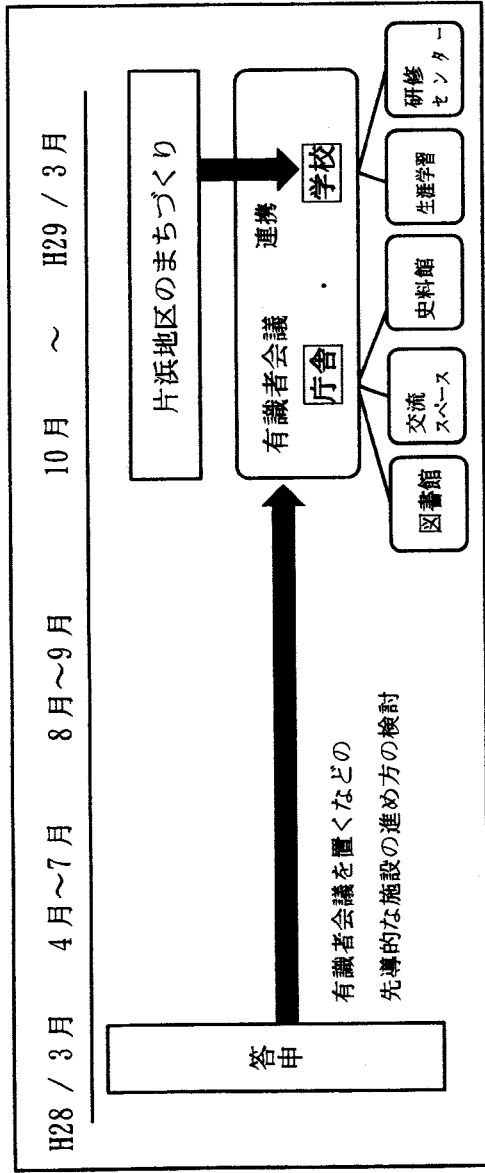
2	<p>● 榛原文化センター          ・ ホール棟は、耐震性や老朽化により閉鎖中</p>	<p>・ 廃止し、取り壊すことで良いと思う。</p>	<p>・ 取り壊す。</p>
3	<p>● 文化財の収集、保存、展示          ・ 史料館、民族資料館、文化財発掘事務所の3箇所に分かれているため、一つに統合したい。          ・ 史料館の1階と民族史料館は空調機能が無いため、貴重な文化財を適温で保存できない。          ・ 結果として、他市の博物館などとの文化財の貸借ができず、企画展などの実施に支障がある。</p>	<p>・ 空調等の設備を整えることが利用人数の増加に繋がると思えない。創意工夫が必要と思う。          ・ 補強や新設し、文化の発信が3倍、5倍になって、全国にPR出来るならやるべきと思う。          ・ 史料館は、相良城下に置くべきと思う。          ・ 相良庁舎のワンフロアが利用できるなら機能を盛り込んでほしいと思う。空調機能も確保できる。          ・ 3箇所のネットワークではなく、一つに統合して、田沼意次のまちづくりへの活用などのプラスの機能を盛り込むことで良いと思う。</p>	<p>・ 関係する3つの施設を一つに統合してプラスの機能を盛り込む。          → どんな機能が必要かについて、庁舎、組織と合わせ検討する。          ・ 適する施設を検討する。          → 史料館機能は、相良城下に置く。          適する施設の検討を行う。          ※相良庁舎のワンフロアの標記は、庁舎の方の議論を先とする。</p>

4	<p>● 図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相良、榛原、移動図書館の3箇所を拠点としていく。</li> <li>司書によるサポート、学習や交流スペースの確保、図書ボランティアなどの活動の促進、教育との連携などを進める視点で施設を考えることが必要</li> <li>相良図書館は、エレベーターから遠く、通路が狭いため、車いすで利用しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館は、本の閲覧、子育て中の母親の交流、高齢者の勉強、市民活動の拠点などの機能にもなる。付帯的機能をもった市民の集まる場づくりと考える。</li> <li>勉強スペース、喫茶スペースを確保する。</li> <li>読み聞かせは、働く母親のサポートにもなる。</li> <li>図書館司書によるサポート、図書館と読書活動に携わるボランティアやサポーターを育成するなど、担い手育成を先行しながら未来志向の施設を考える。</li> <li>幼稚園、小中学校、高校との連携も考える。</li> <li>雰囲気などを含め、利用者の知恵や工夫のアイデアを活かす。空きスペースの確保と合わせて考える。</li> <li>民間活力も視野に入れながらの設計も大事である。</li> <li>図書館のあり方検討会から相良庁舎ワンプログラムの利活用が提案されていることも考慮されるべきと思う。</li> <li>相良庁舎にできた空きスペースに図書とコミュニケーション、集会機能を盛り込むなどの機能化をしていく。</li> <li>維持管理費の面で、一体化して減らすことも考える。</li> <li>榛原図書館は、若者の発想で面白く取り組んでいる。</li> <li>オンラインで予約した本を移動図書館で配る。</li> <li>産業図書館(TSUTAYA)の武雄市では、生涯学習に関するイベントを盛り込んでいく。</li> <li>近隣市町の図書館との連携も考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館は、本の閲覧以外にも付帯的な機能を持つ、交流の場</li> <li>→ 交流、学習スペースを確保する。</li> <li>・ 司書やボランティアの育成を先行しながら施設を考える。</li> <li>→ 活動しやすい施設を考える。</li> <li>・ 利用者の知恵やアイデアを活かす。民間の力を活用</li> <li>→ 利用者の対話の場、有識者による検討会議を設置する。</li> <li>・ 提言の内容や空きスペースを賢く使った施設の利用</li> <li>→ 相良庁舎のワンプログラムを想定して、図書とコミュニティ、集会機能を検討する。</li> </ul>
---	--	---	--

5	<p>●庁舎の行政機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相良庁舎、榛原庁舎、さざんかに分かれている。</li> <li>・高齢者福祉施設うたりが民間施設に移転するため、その空きスペースを活用し、健康福祉部をさざんかに集約する方針</li> <li>・榛原庁舎の6階議場は組合議会で使っているのみ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの中で仮説を立てて審議していく。</li> <li>・物理的な説明も用意しておく必要がある。</li> <li>・さざんかに健康福祉部を集約すると榛原庁舎の一部と文化センター1階は空きスペースが出る。</li> <li>・1,000㎡の機能を移すなら、700～800㎡で済ませる工夫が必要。市民からはノマド行政という意見も出た。面積を減らすための仕組み改革も必要</li> <li>・将来は高台という考えで、当面は、相良庁舎の活用を全面に出す。どちらかに統合ではない。</li> <li>・行政機能を集約した場合に市民サービスが低下しないようにする。</li> <li>・コンビニやオンラインなど民間とのタイアップでサービスを低下させない方法を考える。</li> <li>・重点プロジェクトの相互連携のため、一つの場所での臨機応変に情報交換、会議、研究できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来は、高台という対話の場の意見を尊重しつつ、当面の考え方を整理する。</li> <li>・機能を移転する際は面積を減らす工夫をする。</li> <li>→行政の仕事の効率化を考える。</li> <li>・高齢者福祉施設うたりの移転後のスペースの利用を決める。</li> <li>→さざんかの活用の方策を明確にする。</li> <li>・榛原庁舎の空きスペースを基に仮説を立てて考える。</li> <li>→榛原庁舎へ集約をシミュレートする。</li> <li>・相良庁舎の活用方法を考える。</li> <li>→図書館などを含めた活用方法を検討する。</li> <li>・市民サービスが低下しない対応</li> <li>→市民への直接的なサービスを維持できるように、オンライン、民間との連携を検討する。</li> </ul>
6	<p>●職員の庁舎間の移動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎の行政機能が分かれていることで、庁舎間を職員が移動する調整が必要になり非効率</li> <li>・横断的な課題に対する調整が円滑に進みにくい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>※他の施設分類の方向性などを含めて考える。</li> </ul>

7	<p>●学校施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数の減少が進み、余裕教室等が増えることが予想される。</li> <li>・現在、片浜小学校の一部が複式学級になっている。</li> <li>・プールは、老朽化が進んでいるが、年間の稼働率が低く、現在の形態で維持管理をすることは不効率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15年後に子どもの数が減ることを実感した。</li> <li>・対話の場で出てきたものが全てだと思う。</li> <li>・現在の問題は、15年後の方向性とは別にある。複式学級の統合を答申に含めらるべきと思う。</li> <li>・単学級は児童がかねいそう。複数学級を基本とする。</li> <li>・児童数と学校統合の牧之原市の基準を設ける。最終的な意思決定は、国、県なく、市長にあると思う。</li> <li>・統合後の空き施設は、生涯学習施設として使用する。</li> <li>・これからは、開かれた学校になると思う。スペースを空けて文化系に利用することに適している。</li> <li>・セキユリティの問題をクリアし、活用できる仕組みをつくる。榛原高校の図書館との連携などを考える。</li> <li>・プールは、7,8月しか使用しない。B&amp;Gやエアースワに補助金を出し、通年でカリキュラムを設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15年後の方向性を明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→対話の場の意見を尊重する。</li> <li>・複式学級は解消する。</li> <li>→市の学校統合の基準を設ける。</li> <li>・開かれた学校にする。生涯学習の拠点としても活用する。</li> <li>→地域が主体となって考えるような対話の場を設ける。</li> <li>地域と複合的に利用する仕組みを考える。</li> </ul> </li> <li>・プールの老朽化、利用効率が悪い事への対応を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→民間施設や社会体育施設を活用する。</li> </ul> </li> </ul>
		<p>H28 / 3月    4月～7月    8月～9月    10月    ～    H29 / 3月</p> <p>答申</p> <p>進め方の検討</p> <p>片浜地区のまちづくり</p> <p>有識者会議</p> <p>庁舎    学校</p>	

次年度の進め方（案）



○対話の場における 大切にしている視点 (基本理念)

対話による共感を通じて、この大切にしている視点を基に公共施設マネジメントを進めます。【イメージ図は裏面右下】

【視点1】 未来志向で考えよう！

- 20年後の将来に向けて、ワクワク感を持って進めよう  
20年後の未来は、私たちが想像する以上に大きく変わっていると予測されます。既成概念にとらわれず、この変化に向けて、柔軟に発想や意識を転換します。  
新しいことを積極的に取り入れ、デザイン性や使いやすさ、愛着をみんなでも追求することで、魅力ある公共施設にします。  
また、魅力ある将来の姿に向かうため、一時的な不便さととらわれず、未来志向の価値観を大事にします。皆で施設の数ではありません。

- 子や孫世代のため、尊厳とスピード感を持って進めよう  
このまちの将来を担う子や孫世代の明るい未来のためには、今を生きている私たちが真剣に取り組まないといいけません。  
次世代に借金やツケを残さないため、状況の変化に合わせて考え、行動する勇氣と覚悟をもってこの問題に臨みます。  
この問題は、全国各地で起こっていることであり、時間が経つほど深刻化するため、スピード感を持って取り組めます。

- 優先度の高いことから積極的に取り組もう  
未来志向を進める中でも、一歩ずつ着実に前に進むことが必要です。そのためには、全ての分野を画一的に進めるのではなく、大切にしている視点を基に単点的かつ具体的に手を付けなければなりません。  
安心して子どもを産み育てる環境、災害時の対応などの防災、地域のコミュニティなどを通じた世代を超えた交流などを大切にして取り組めます。

【視点2】 賢く使おう！

- 今あるものを活かそう  
未来志向での考え方で進めるとともに、現実にある施設の新たな使い方や価値を発見することで、施設を賢く、有益に活用します。  
原則として新たな施設はつくらず、今ある施設を活かします。残すことができる施設は残して、現在の状況に合わせて使い方に賢く転換します。  
日々の手入れなどの工夫をすることで、利用できる人達の主体性を大切にすることで施設への愛着を育み、大事に使うことで、できるだけ長持ちさせます。

- 新しい発想で有効活用しよう  
公共施設の機能をその特性に合わせて、効果的に集約、複合化などを行い、施設の機能を再配置します。また、それに伴う施設の空きスペースを活用して、新たな利用需要に応えることで、施設の総量が減っても、充実度が上がるような新しい使い方を考えます。  
公共性を持つ民間施設などとの連携を深めるとともに、民間の方が施設の設置や運営に長けている分野の民間化を進めます。民間との連携や協力により、幅広く、質の高い公共サービスの提供に努めます。

- 無理・無駄を省いて効率よく使おう  
利用効率が悪い施設などの状況を分析し、無理や無駄を省く使い方を考えます。また、耐震などの安全性が不十分な施設は、早期に改修または廃止を検討します。  
利用上の低い施設は、施設の面積当たりのコストが割高になるなど、公平性が損なわれる恐れがあるため、他の用途への転換や複合化を進めます。また、夜間や休日の利用などの二二三を確保し、稼働率が上がる使い方に見直します。

【視点3】 共感を大事にしよう！

- 状況や考え方を知らず、知ってもらおう  
公共施設の賢く、合理的な使い方を考えるためには、現状、設置の経緯及び目的などを共有することが必要です。施設の設置者は、知ってもらったための広報に努め、利用者もこれらの状況を知るように努めます。また、施設の魅力や面白い使い方を発信することで市民の関心を高め、みんなに愛される利用率の高い施設を進めます。



説を口指します。

- 意識や考え方を共有する対話の場を設けよう  
施設に係る方針やデータを整理し、この問題に対する基本的な考え方をみんなでも共有します。また、公共施設には、多くの人の様々な思いが込められています。数は少なくても、その施設に大切な思いを持つ人の意見にも耳を傾けるとともに、みんなでも認め合い、支え合う相互扶助感を持って進めます。

- みんなの知識、やる気を引き出す進め方をしよう  
みんなの思い、疑問、アイデアなどを共有する対話の場を設けることで、学び、気づき、共感を通じて、この問題への納得感が高まる進め方をします。  
また、空き施設の活用などについては、行政、市民、その他の関係者の英知を結集してまちの賑わいを創出す視点で考えます。  
この問題に関わる人達の知識、やる気が高まることで、その才能を広げ、市民力を進化させるような進め方をします。

【視点4】 みんなでやろう！

- みんなでも考えよう  
この問題は、一人一人の生活に関わる重要な問題であるからこそ、みんなが自分事として考えることが必要です。多少の不具合や不便を感じたり、一時的な不効率があつたりしたとしても、市民全体の利益を考えて、市民と行政が一線になって、みんなでも取り組んでいきます。

- 自分達でできることは自分達でやろう  
誰かが解決してくれると考えると、小さなことでも自分達ができることを考え、自分達から直ぐに行動します。  
施設を実際に使用している人が、その施設の事を一番身近に考え、愛着と親しみを持っています。施設を管理する行政、使用する市民という関係に固執することなく、利用と負担を一緒に考え、みんなでも維持管理する体制を実現します。  
多くの人が関わることで、使いやすい、愛着ある施設に育てていきます。

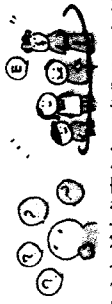
- 市民力を発揮しよう  
設置者と使用者が対立するのではなく、対話を通じて効果的に連携し、役割分担して魅力ある施設づくりに取り組まれます。  
また、地区などの自治会を中心とした生活密着型の組織を核に、その活用方法を主体的に考えるときにも、多様な能力や価値観を持った人が市の内外から集まり、様々な立場や視点に配慮しつつ、その能力を最大限発揮することで、公共施設を活用した魅力あるまちづくりを進めます。

【視点5】 まちづくりを考えよう！

- 牧之原市にあったまちの姿を目指そう  
牧之原市は、温暖な気候、豊かな自然、多様な交通インフラの整備などにより、自然と調和した人やもの交流拠点として期待が高まっています。  
牧之原市らしさを活かした魅力あるまちをつくるために、獨白性のある公共施設の活用方法を考えることが重要で、このまちの視点で公共施設の問題を考えます。  
このまちに生まれ、育ち、暮らしている人達が更に住みやすく、このまちを訪れる人達が魅力を感じるまちづくりの視点で公共施設の問題を考えます。

- みんなでもまちのデザインを共有しよう  
まちの将来のデザインをみんなでも共有することは、このまちへの親しみや誇りを培うことにも繋がります。総合計画などの方向性と整合を図りながらも、まち全体や地区単位などの将来のデザインを対話によって共有し、その実現に向けて公共施設を活用します。

- まちへのみんなの思いを大切にしよう  
みんながこのまちに持っている思いや愛を大切にすることで、自分たちの取組がまちの将来に繋がっている共感を生むことが、周りの市町村から「おっ」と思われる取り組みに繋がります。  
計画の実現性を高めるため、まちへのみんなの思いや愛を大切にしたい公共施設マネジメントを進めます。





## ○対話の場における 施設分類別の方向性

施設分類別の方向性を以下のとおり整理します。下線部分は、先導的な施設（プロジェクト）の中で横断的に検討します。

### (1) 行政・文化施設グループ

#### ■行政施設

- 庁舎機能は、基本的に1つにまとめるが、窓口サービスの提供などに十分配慮した対応をとる。
- 向台を含めた庁舎の移転は、長期的なまちづくりの視点で検討を続ける。
- まとめ方は、現在ある施設を賢く使うことを原則とし、市民が使いやすい構造や機能を確保する。
- まとめる先は、安全性などを考慮するとともに、空き施設の活用を含めて検討する。

#### ■文化施設

- 史料館、民俗資料館、埋蔵文化財発掘事務所の機能を1つにまとめる。図書館は、既存施設の空きスペースを活用して施設の規模を拡大する。
- 文化ホールは、安全性を考慮して隣接文化センターのホール棟を取り壊す。いへらは、全市で活用できる使いやすい施設とするため、既存施設の賢い活かし方を検討する。
- 芸術文化、図書館などの機能を複合化することを、まちづくりと合わせて検討する。

### (2) 学校・体育・子育て施設グループ

#### ■学校施設

- 小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、15年後を目途に中学校単位で小学校をまとめる。
- 複式学級になることが見込まれる場合は、周辺校と統合する。
- 学校の空き施設の活用については、まちづくりにおける複合利用の拠点とすることを全市的な視点で市民と一緒に考える。

#### ■体育施設

- 学校施設の統合と合わせて、長期的な視点であり方を検討する。
- 当面は、ぐりんばる、相良総合グラウンド、静波グラウンド周辺を拠点として整備を進める。
- その他の体育館やテニスコートは、利用状況や他の施設の代替利用などを考慮したうえで、廃止や用途変更を検討する。
- プールは、単独の設置では利用効率が悪いことが課題であるため、公園、観光などの包括的利用、民間施設との連携を基に廃止や見直しを進める。

#### ■子育て施設

- 少子化や2歳以下の保育需要の増加などに合わせて、施設の配置を見直しとともに、認定こども園などの形態へ移行する。
- 保育園、幼稚園は、民間による運営を基本として考える。
- 直営で運営している園は、指定管理制度の導入を進める。指定管理制度を導入している園は、園建設時の起債償還を目途に民営化への移行を進める。
- 民間法人と民営化に係る協議を進める。
- 各園の方向性は、上記の方針を基に、個別計画の中で具体的に定める。

### (3) コミュニティ、公園施設グループ

#### ■コミュニティ施設

- 現小学校区の10地区を単位として、まちづくりの視点で施設を活用する。
- 施設は、市が所管し、地区が運営することを基本とする。
- 施設の老朽化などに対しては、学校の空きスペースの複合利用などを含めた質の向上、賢い使い方を地区と一緒に考える。

#### ■公園施設

- 拠点となる公園は、地域、民間、NPOと連携して、その魅力を高める。
- 維持管理費を見直し、コストを削減する。
- 地域が主体的に管理運営に関わることで、使いやすい、楽しい公園を実現する。
- 公園の魅力を積極的に情報発信し、利用率を高める。

### (4) 保健福祉・観光産業施設グループ

#### ■保健福祉施設

- 高齢者のデイサービスセンターは、民営施設の利用を基本とする。
- 老人会館は、他の空き施設の利用により機能を移転し、施設は安全性を考慮し、早期に廃止する。
- 高齢者の介護予防に係る施設は、健康づくりや世代を超えた交流を進めるため、民間との連携を含めて施設の活用方法や配置を検討する。

#### ■観光産業施設

- 自然、歴史、食、スポーツなどをテーマに、魅力ある着地型観光を進める視点で施設の配置や活用方法を見直し、観光の魅力を高める。
- 民間との連携を基本として、賢く使うことを考える。

## ○対話の場における 先導的な施設（プロジェクト）

施設分類別の方向性の中でもまちづくりの視点で横断的かつ重点的にかつ重点的に取り組む施設であり、賢く使うためのモデルとなる施設を、先導的な施設（プロジェクト）として位置付けます。

### 庁舎施設の活用プロジェクト

#### 【概要】

庁舎のオフィス機能の統合後にその空きスペースを活用して、当該地区の賑わいを創出するための拠点をつくる。新たな人の流れをつくることで、現状よりも周辺地域を活性化させる施設とする。

また、その地区が愛着を持てるコンセプトを盛り込むとともに、コミュニティ施設なども複合化することで住民の生活の拠点として、多くの人が交流する拠点施設とする。

#### 【機能のイメージ】

図書館、芸術文化、商業テナナント、地区のコミュニティセンター、地産地消の物販、公的団体の事務所、その他公共性のある施設など

施設分類別の方向性の行政、文化、コミュニティ、保健福祉、観光産業  
関係



### 学校施設の活用プロジェクト

#### 【概要】

学校施設を活用し、市民活動や文化活動を通じて、市民間の交流が促進されるような拠点をつくる。学校施設には、多様な形態の教室があり、体育施設など複合的に設置されているため、多様な市民活動の展開が期待できる。

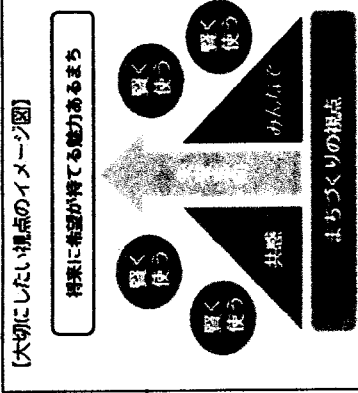
また、この拠点施設の利用を通じて、旧町単位で実施されてきた市民活動や文化活動の市単位の一体感を高め、全市的な視点での展開を図る。

#### 【機能のイメージ】

施設分類別の方向性の文化、学校、コミュニティ、保健福祉関係  
市民交流センター、生涯学習や公民館活動の拠点、青少年・高齢者の交流の拠点など

### 【参考】大切にしている視点のイメージ図

まちづくりの視点を基礎に、未来志向の価値観を、共感を通じてみんなで取り組むことが支え、賢く使う方法を進める。  
将来に希望が持てる魅力あるまちづくりを進め、住みたい・住み続けたいと思えるまちを実現する。



# 平成27年度 第9回 自治基本条例推進会議 議事録

日 時：平成28年2月25日（木）

午後7時～9時

会 場：榛原庁舎4階 会議室1・2

## 1 開 会

## 2 会長挨拶

- ・全国にある商店街11,000カ所。もっともユニークな商店街が香川県高松市にある。何回か視察に行っているが、今回行ったら新しく病院がいくつか出来ていた。四国出身の自治医科大学の医師が企業誘致・人誘致をした結果。
- ・加藤一億総活躍担当大臣と面会した。

## 3 議 題

### (1) 報告会の役割分担と進め方について

会 長：

- ・次第・当日の流れについてはこれで良い。
- ・開会～答申スケジュールの説明までは1時間程になるのでは？その後、意見交換で1時間程。
- ・今までの経過のようなものはどこかに入れた方が良いか？主催者挨拶に含める？

事務局：

- ・当日はこれまでの経過について情報がない人も多く来る。今のところ200人弱が出席予定。当日、天候などによって多少の減はあるかもしれない。会場的には200人は収容出来る。

会 長：

- ・机と椅子も200人分準備出来るのか？

事務局：

- ・椅子だけの予定。

会 長：

- ・参加者に優しい会議づくりを考えると、出席者がメモも取れないような状況ではいけない。主催者側がメモをとらせたくないと思われてしまう。もう少し親切丁寧にしてあげないと。物理的に不可能なら仕方ないが。

専門監：

- ・工夫します。

戸塚委員：

- ・参加者に配られる資料はどれ？  
(事務局：資料2 A3の資料。)
- ・資料2については対話の場の参加者の手にまだ渡っていない？  
(事務局：近いものはあったが、今回のものは当日初めて受け取ることになる。)

会 長：

- ・次第と資料2だけでは足りない。
- ・資料1・・・そのままでは出せないが、対話の場の意見をもとに自分たちが何をしたかが書いてある重要なもの。
- ・現状と主な課題→対話の場での意見→推進会議としての方向性は資料として出すべき。表現には気を付けなければならないが。口頭だけの説明では分かりにくい。

～事務局からパワーポイント資料の説明～

会 長：

- ・20年前との変化①の表・・・平成2年～22年まででなく、将来的な推計値も入れたほうが良い。税金・民生費・扶助費が今後どうなるか、市民が納得するようなデータが欲しい。

戸塚委員：

- ・住民一人当たりの地方債残高・・・ピンとくる人が少ない。細かな数字はいらない。市の財政が厳しいと簡単に伝えれば良いのでは。

会 長

- ・②の表・・・財政・産業の欄はいらない。統廃合の関係で児童数などは必要になってくるが、その他のものも情報が拡散するので削って良いのでは。

澤島委員：

- ・児童数は学区別まではいらない？

戸塚委員：

- ・これで良いと思う。20年で半減したというだけで十分。

澤島委員：

- ・学校と児童数は片浜のことを言うにあたって必要かどうか・自分たちは前回の会議で見たが、それを報告会の参加者に示すかどうか。

会 長：

- ・あったほうが説得力があるのでは？(小学校ごとの児童数)

戸塚委員：

- ・これは過去10年の平均減少率をそのまま向こう10年にスライドさせている。そこは注意が必要。

事務局：

- ・今の一年生までは実数だが、そこから先はあくまで推計値。

戸塚委員：

- ・そこは仮説でしかない。これから生まれてくる生命なので。

澤島委員：

- ・実数までのところで切っても良いかもしれない。

戸塚委員：

- ・学校別まではいらないと思う。

澤島委員：

- ・説明をするときに、複式学級のことを中心に話をするのなら学区の問題は要らないと思うが。

戸塚委員：

- ・庁舎統合・小学校統廃合については周知の事実に近いレベルまできている。ここで固有名詞を出すのはどうかと思う。
- ・跡地の活用についての推進会議での議論もまだ十分にされていない。
- ・答申を受ける市長の立場として考えると、固有名詞でせめてしまうと判断の幅が限定されてしまうのでは。
- ・固有名詞を出すことに関しては、大半の委員が了承しているが、自分としては時間があればもう一度議論をしたいところ。

会 長：

- ・データから〇〇小学校は廃校・・ということを使うつもりはない。なかなか全体を数字で示して現実を知ることはないので、現状を示す中で複式学級・・というところにつなげていけたら。

- ・答申でどこまでのレベルを出すかについては報告会で意見をもらってまた議論をします・・・という形で良いのでは？

～事務局より資料4(P20～)、資料5について説明～

戸塚委員：

- ・文化活動が出てくるのは先導的施設の関係？学校教育と行政施設を先導的プロジェクトとして位置付ける。どこかに絡んでくるのか？学校教育？

～事務局による説明～

会 長：

- ・対話の場における施設分類別の方向性(A3)で特出した説明が必要ではないか？

戸塚委員：

- ・聞き手の7割は初めて正式には聞く人。

会 長：

- ・こういう議論を踏まえていますよ・・・という説明のために施設分類別の方向性(A3資料)活用しても良いのでは。

戸塚委員：

- ・榛原文化センター(会館棟)でスペースが足りないことや利用者が不便を感じている一方で耐震が弱くて補修が必要・・・そのあたりも付け加えたほうが良いのでは。

会 長：

- ・二つの生涯学習制度は旧の二町体制。一ヶ所、核になるようなところをつくって、希望があれば移動して・・・という話が前回出ていたが・・・それはどこに入っている？
- ・地区ごとに拠点を・・・という話もあったが、それではどんどん増えていくだけ。希望があれば出かけて・・・という形のほうが良いと思う。
- ・生涯学習の部分について説明する人は利用状況など、データも含めて説明をお願いしたい。

戸塚委員：

- ・図書館について・・・「図書館のあり方検討会の提言を尊重し・・・」と書かれているが、唐突すぎて聞き手が分からないのでは。もう少し丁寧にやったほうが良いと思う。提言7つを資料の中に入れたほうが良い。

会 長：

- ・移動図書館は十分に機能していると言えるのか？
- ・市内高校図書館の有効活用も入れ込んだほうが良いのでは。「ネットワークシステムとして図書館機能として位置付ける。」

澤島委員：

- ・あり方検討会の提言も、新しい建物を・・・というよりは有効活用をという方針だった。そういうソフト的な内容を。建物ありきのイメージではない。

戸塚委員：

- ・交流、学習スペースを確保する。→例えば庁舎統合とすりあわせながら図書館機能の+ $\alpha$ である交流学习スペースを確保する・・・という言い方にしては。

佐藤委員：

- ・「活動しやすい」・・・誰が？「市民が利用しやすい」では？

櫻井委員：

- ・「利用者、民間の知恵を活かすため、対話の場や・・・」→いらない。

戸塚委員：

- ・「対話の場」・・・50人の人に5回集ってもらい、自由に方向性・理念をまとめてもらった。それを受けて推進会議が答申を出し、答申を受け取った市が具体的に着手していく。基本的にはもう一度、当事者・利用者・役所・団体・専門性の高い人が入ったの検討会が必要では？「対話の場」という表現を出すと、またか・・・という印象になってしまう。専門検討委員会をどのプロジェクトについても設けるといのかぶせが必要ではないか？

大石委員：

- ・まず先に着手するのは庁舎と学校施設。その後で専門的な人も入ったの検討委員会があって・・・そこで図書館などが出てくる。そういう書き方にしないと。

戸塚委員：

- ・スライドの順番が悪いのかもしれない。まずは庁舎→学校から始まるのでは？そこに絡むのが空きスペース活用で図書館。

会 長：

- ・庁舎・学校施設は先に出さない。

佐藤委員：

- ・答申を受けて市がやることと推進会議で検討したことがごちゃ混ぜに書いてある。

対話の場の参加者が見ると「こんな意見まで出たかな・・・？」という気持ちになる。  
市の施策としてやるものはあまり細かく書かない方が良いのでは。

会 長：

- ・どの程度までの答申にするかという考え方は人それぞれ。市に合わせた答申を出すなら自分たち推進会議の意味がないし、市民から疑われてしまう。

佐藤委員：

- ・市役所庁舎・・・一番上に「将来は高台・・・」がくると対話の場での意見が一つにまとまっているというイメージになってしまう。

戸塚委員：

- ・まずは統合→高台案については将来的なテーマみたいな表現。どこかの資料に書いてあったが、良かった。(対話の場における施設分類別の方向性(A3資料))
- ・対話の場のまとめ+推進会議の意見を突っ込めば一つに出来る。今からやるのは大変？

会 長：

- ・二庁舎を一庁舎にして将来は高台に・・・という表現で良いのでは？

澤島委員：

- ・当面は統合。20年先を見据えて高台も。
- ・資料5の中には図書館について相良庁舎のワンフロアを活用・・・と書いてある。庁舎が空いていると想定しないと内容的にちぐはぐになってしまう。

会 長：

- ・榛原庁舎に統合と具体的に出すのは強すぎるのか まだ議論が必要？

戸塚委員：

- ・項目ごとに濃淡が出るのは仕方ないと思う。庁舎については濃く出すべきレベルにきているのでは？

櫻井委員：

- ・庁舎については、みんなが一番注目しているところ。

戸塚委員：

- ・対話の場では榛原・相良の個称は出てきていた？

櫻井委員：

・おのずと榛原に・・・という全体的な意見にはなった。

澤島委員：

・対話の場に出てなかったとしても、推進会議での検討で、コスト面など考慮して榛原が良いとなった・・・と言っても良いのでは？言うなら報告会で投げしてみるのがチャンス。反応を見て答申を考えれば。

専門監：

・対話の場における施設分類別の方向性(A3資料)の中のうち、榛原文化センターの空きスペース活用などを入れて資料説明をするのはどうか？パワーポイントがうまく修正出来ればいいが・・・

会 長：

・対話の場のまとめがほとんどを占めている資料なので、そこに推進会議の意見を入れて横着をしたようには思われたくない。

専門監：

・全部を説明するのは字も小さく大変なので、ポイントだけでも説明してもらえれば。

佐藤委員：

・二段構えで、対話の場の意見はA、推進会議の検討はBにしても良いのでは？

戸塚委員：

・線引きが難しくなる。

会 長：

・対話の場の意見で尊重するものとさらに付け加えるものを説明。(パワーポイント)  
・庁舎について個称を挙げるかどうか。どうする？

永田委員：

・庁舎統合については、ある程度明確に出さないと図書館・史料館の話も発展していない。

大石委員：

・図書館や生涯学習の話ですれば庁舎はどちらなのか透けてくる・・・？

会 長：

・説明の順番・・・庁舎→学校→生涯学習→文化財→図書館で。  
・①についてのパワーポイントは自分が手直しをする。



戸塚委員：

- ・1時間の中で8人が発表出来るか？
- ・司会は進行と③、主催者挨拶(①答申の視点も含む)は会長、対話の場のまとめが1人、施設についても5つ全部を1人で良いのでは？計4人で。聞き手も説明する人があまり変わり過ぎると疲れてしまうのでは。

佐藤委員：

- ・1人で施設を全部説明するのは大変。委員1人ひとりが覚悟をもって発表することも必要だと思う。

【役割分担】

- ・司会・・・澤島委員
- ・主催者挨拶・・・坂本会長 (20分)
- ・対話の場のまとめ・・・戸塚委員 (10分)
- ・庁舎・・・櫻井委員 (5分)
- ・学校・・・大石委員 (5分)
- ・生涯学習・・・永田委員 (5分)
- ・文化財・・・佐藤委員 (5分)
- ・図書館・・・山本委員 (5分)
- ・意見交換・・・山本副会長 (マイク渡しは事務局で。)

副会長：

- ・回答を求められるようなものがあつた場合はどうすれば良いか？

会 長：

- ・数値的なものは事務局に答えてもらえば良いが・・・

大石委員：

- ・基本的には意見をきくだけで良い。答申が出てからならQ&Aだが。

会 長：

- ・26日金曜日の午前中までに個々の説明について調整などあれば事務局に連絡を。
- ・当日集合時間・・・8時。

戸塚委員：

- ・3月18日の会議終了後に懇親会をしたらどうか？

(2) その他

4 副会長挨拶

5 連絡事項

【次回の日程変更】

日 時：平成 28 年 3 月 18 日(金) 午後 3 時～午後 5 時 30 分

会 場：市役所榛原庁舎 4 階会議室

6 閉 会